ＣＦロガー（コマンド版） 取扱説明書

ＤＴ－ＣＦ０１－Ｃ

(2006.10.05)
注意事項の誤記を訂正しています。
(2005.08.16)
この資料は、オートパージ機能を搭載した、バージョン CV103 以降に適応します。

目次

Ⅰ　概要・仕様
Ⅱ　各部の名称
Ⅲ　使用方法
Ⅳ　ファイル仕様
Ⅴ　注意事項

株式会社データ・テクノ

Ⅰ　概要・仕様

概要

ＣＦロガー（コマンド版）は、ＲＳ－２３２Ｃのコマンドで、ＣＦ（コンパクトフラッシュ）メモリカードのデータを、読み書きできるボードです。

ＣＦメモリカードのデータは、市販のメモリカードリーダにセットすることで、パソコンで読み書きできます。

コマンドの仕様は別途下記の資料を参照してください。
　　ＣＦロガー（コマンド版）　コマンド通信仕様
　　ＣＦロガー（コマンド版）　コマンドリファレンス

仕様

通信速度（ｂｐｓ）：　３００，１２００，２４００，４８００，９６００，
　　１９２００，３８４００，５７６００

データビット　：　８ビット　（7 ビットは使用不可）

パリティ　：　なし　奇数　偶数

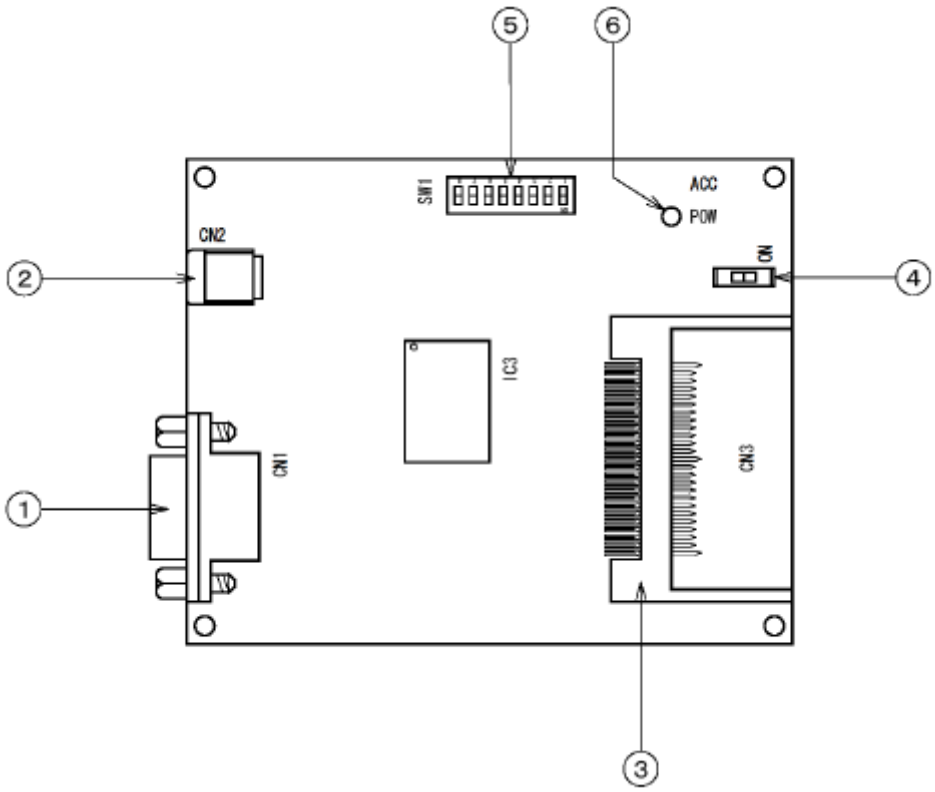
ＣＦメモリー　：　ファイルシステム　ＦＡＴ１６対応

ＲＳ－２３２Ｃ　：　Ｄ－ＳＵＢ　9ピン　コネクター

電源　：　ＤＣ　８Ｖ～１２Ｖ　１００ｍＡ

注）ＣＦメモリーカード、ＡＣアダプターは付属しておりません。

Ⅱ　各部の名称

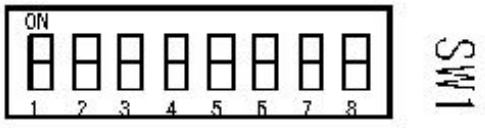


①	ＲＳ－２３２Ｃ　コネクター
②	ＤＣ電源コネクター
③	コンパクトフラッシュメモリ用コネクター
④	スライドスイッチ（ＳＷ２）
⑤	ディップスイッチ（ＳＷ１）ボーレートその他設定
⑥	表示ＬＥＤ（ＰＯ）

Ⅲ　使用方法

１．ディップスイッチの設定

ディップスイッチ（ＳＷ１）



スイッチは左からＳＷ１－１～ＳＷ１－８まであります。スイッチは上がＯＮで下がＯＦＦです。

１－１）ボーレートの設定

ボーレートはディップスイッチの（ＳＷ１－１）から（ＳＷ－３）を設定することによって行います。

スイッチのＯＮ、ＯＦＦとボーレートの対応は下記表のようになります。

速度（ｂｐｓ）	ＳＷ１－１	ＳＷ１－２	ＳＷ１－３
３００	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＦＦ
１２００	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＦＦ
２４００	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＦＦ
４８００	ＯＮ	ＯＮ	ＯＦＦ
９６００	ＯＦＦ	ＯＦＦ	ＯＮ
１９２００	ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＮ
３８４００	ＯＦＦ	ＯＮ	ＯＮ
５７６００	ＯＮ	ＯＮ	ＯＮ

１－２）予備１

必ずＯＮに設定してください

１－３）パリティ

パリティはディップスイッチの（ＳＷ１－５）と（ＳＷ１－６）を設定することによって行います。
スイッチのＯＮ、ＯＦＦとパリティの対応は下記表のようになります。

パリティ	ＳＷ１－５	ＳＷ１－６
なし	ＯＦＦ	ＯＦＦ
奇数パリティ	ＯＮ	ＯＦＦ
偶数パリティ	ＯＦＦ	ＯＮ
未使用	ＯＮ	ＯＮ

１－４）メンテナンス

ディップスイッチの（ＳＷ１－８）は弊社メンテナンスのためのもので、通常はＯＦＦにして使用してください。

メンテナンス	ＳＷ１－８
モードＯＦＦ	ＯＦＦ
モードＯＮ	ＯＮ

１－５）予備２

ディップスイッチの（ＳＷ１－７）は予備です。

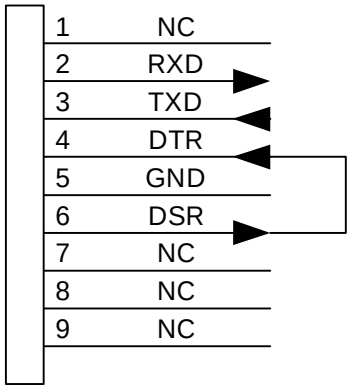
２．接続

２－１）ＲＳ－２３２Ｃケーブルの接続

ＲＳ－２３２Ｃ　コネクター（ＣＮ１）の接続は間違いのないように各信号を確認してください。
コネクターのピンアサインは下記です。

（パソコンのＲＳ－２３２Ｃと接続する場合はクロスケーブルになります。）

ＣＦロガー



注）7ピンと８ピンのＣＴＳ、ＲＴＳを使ったハンドシェイクは行っておりません。

２－３）電源

ＤＣ電源（ＤＣ８Ｖ～１２Ｖ）はＣＮ２の外部電源ジャックから供給します。
適合プラグは内径Φ２．１、外形Φ５．５のものを使用してください。
（センターがプラスです）
ＤＣ電源を供給する前に、スライドスイッチ（ＳＷ２）をＯＦＦ（ＯＮと反対の方向）にしておいてください。

３．ＣＦメモリのセット

ＣＮ３にＣＦメモリをセットします。

４．スライドスイッチ（ＳＷ２）ＯＮ

スライドスイッチを（ＯＮ）の側にすると電源が入ります。

５．スライドスイッチ（ＳＷ２）ＯＦＦ

コマンドのやり取りが終わり、作業を終了するには、スライドスイッチを（ＯＮ）と反対の方向（ＯＦＦ）にスライドさせます。オープンしているファイルがあれば、それを閉じたあと自動的が切れます。

これでＣＦメモリをとりはずすことができます。

注）オートパージ機能の搭載により、スライドスイッチを（ＯＦＦ）せずに電源を切っても、書き込んでいる途中でなければ、ファイルシステムを壊すことはなくなりました。
しかし書き込みの途中に電源が切られれば、ファイルシステムを壊す可能性が、やはり残っています。
したがって基本的に電源は、スライドスイッチ（ＳＷ２）で操作してください。
カードに書き込み中でなく､その先もコマンドが来ないことが保証される場合のみ、直接電源を切ることが出来ます。

６．表示ＬＥＤ（ＰＯ）

ＬＥＤは次のように表示します。以前のＣＦロガーとは仕様が変更されています。

カードにアクセス中	点灯
データをバッファリング中	点灯
通常状態	１０秒に１度、１回点滅
カードが装着されていない場合	１０秒に１度、遅く２回点滅
データ通信上のエラーが発生した場合	３秒に１度、速く３回点滅

Ⅳ　ファイル仕様

ファイル仕様

ファイルシステム　　ＦＡＴ１６

ファイルの名称　　半角英数８文字＋３文字拡張子
（ロングファイル名には対応していません）

注)・アクセスできるファイルは、ルートディレクトリーにあるファイルのみです。アクセスできるファイルの数には上限があります。

・ ファイル数の上限は使用するＣＦメモリにより異なります。ある一般的なＣＦメモリでは５１２個です。

Ⅴ　注意事項

オートパージ機能

オートパージ機能により、スライドスイッチをＯＦＦしなくても、電源を遮断することが出来るようになりました。
また、不意の電源遮断に対しても、ファイルシステムを破壊させる可能性が少なくなりました。

オートパージ機能は、３秒間書き込みデータが途絶えると、ロガー内にバッファしているデータを、カードに書き出します。
このとき、ファイルシステムの一貫性を保つように書き出しますので、その後次の書き込みが発生するまでのあいだに電源が遮断されても、書き込まれたデータは正しい状態で存在します。

電源を遮断することの出来るタイミング

電源を遮断することの出来るタイミングは、直前に３秒以上書き込みデータの受信がなく、その後電源遮断が完了するまで書き込みデータの受信が無いときです。
３秒以上書き込みデータの受信が無かったことは、ＬＥＤ表示が消灯することで確認できます。
その後書き込みデータの受信が無いかどうかは、接続されている装置の状態を確認してください。

注意事項

オートパージ機能を有していても、カードへの書き込みの途中で電源が遮断されると、ファイルシステムを破壊させる可能性があります。
電源の遮断は、基本的にはスライドスイッチをＯＦＦにしてから、そうでないなら前述の条件を満たしているときに行なってください。
しかしもし不意に電源が遮断しても、ファイルシステムを破壊させる確率は、以前よりはるかに少なくなっています。

スライドスイッチとカードの抜き差し

カードの抜き差しは、電源が遮断されているときに、行なってください。
スライドスイッチをＯＦＦすると、オープンされているファイルがある場合は全てクローズされ、ＣＦロガーの電源が遮断されます。